

盛況に「さよならコンサート」

らいぶ in ほしか実行委員会の皆さん



らいぶ in ほしか実行委員会（池田理子代表）が、9月9日の石井秀弦&トリプルショットによる津軽三味線コンサートを最後に、活動を休止することになりました。

同実行委員会は、平成11年に星鹿・御厨地区の有志により「北の端（星鹿半島）から音楽を発信し、地域おこしを！」と結成され、年間2回の公演をめざして活動を続けてきました。

これまでに古楽器・チェンバロの演奏やフォルクローレ（南米音楽）、盲目のフォーク歌手キム・ジョンのコンサートなどを開催し、多くの聴衆を魅了してきましたが、会員の減少などで運営が難しくなり、「さよならコンサート」をもって活動を休止することにしました。

会員のひとり石田博之さん（御厨・池田）は、「出演者との交渉からチラシづくり、券の販売までを会員がやることで、コンサートに来ていただく方の負担にならないように取り組んできました。7年間続けてきて、休止になることは寂しい限りです。将来、会員を募って違ったかたちでやってみたいですね」と話していました。

ラストコンサートには、石井秀弦しゅうげん&トリプルショットが出演し、「津軽じょんがら節」や「津軽あいや節」「弥三郎節」のほか、津軽三味線の演奏の移り変わりやオリジナル曲など10曲を披露しました。

会場には市内外から約300人の聴衆が詰め掛け、津軽三味線の力強い演奏に盛大な拍手を送っていました。



9月9日に星鹿コミュニティセンターで開催された「さよならコンサート」の様子

旬の人

「救急の日」にちなんで
救急医療をPR

末吉みどりさん

(御厨・駅通、23、写真右)

坂口加代子さん

(志佐・栢ノ木、36、写真左)



通信指令室で説明を受ける2人

「救急の日」(9月9日)にちなんで、松浦地区消防本部で9月8日に、末吉みどりさんが一日救急隊長を、坂口加代子さんが一日通信指令室長を務め、救急医療のPRを行いました。

救急医療で消防署と連携して業務を行う押測病院(市内唯一の救急告示病院)の准看護師である2人が務めたもので、救急医療のPRとともに、相互理解を深めることを目的に実施されたものです。

この日は、林田博光消防長から2人に辞令が手渡された後、業務開始。通信指令室の説明を受けたり、広報車で「いざという時のために正しい応急手当の知識を身につけましょう」「救急車の安易な利用は避けましょう」などと呼びかけ、市民に応急手当ハンドブックを配布して回ったりしました。

2人は「救急医療の面で関係ある職場だけに、緊急時の消防署員の方の対応や救急車内での対応状況などに以前から興味があり、今回はとてもいい経験ができました。

また、管内の地域が広いことや、職員が少ない中で、講習会などを行っていることなどに驚きました。今回は私たち2人が務めました。今後は院内のほかの担当者も経験し、救急医療に生かしていけたらと思います」と話していました。